



2024年5月号(No.18)  
 公益社団法人 日本山岳会  
 The Japanese Alpine Club  
 東京都千代田区四番町5-4  
<https://www.jac1.or.jp>

3カ月に一度発行する「山」ユース版では、ユース世代の会員の活躍をご紹介します。ユースクラブに関心のある方は、ユースクラブ委員会のメールアドレスにご連絡ください。

✉ [jacml-yc@jac1.or.jp](mailto:jacml-yc@jac1.or.jp)

【編集担当】  
 松原尚之  
 滝沢守生  
 谷山宏典  
 田島圭悟  
 新井 梓

## 海外登山報告会 2024 が学習院大学で開催

春うららかな3月17日、東京・目白にある学習院大学で日本山岳会による海外登山助成金を受けた2隊と日本山岳会120周年事業の一環として行なわれた2隊の登山隊の報告会が、天皇陛下のご臨席のもと、150名もの来場者を迎えて開催された。

まず初めに登山報告を行なったのは、6月23日から7月5日にかけてカナダで行なわれた、ユースクラブ委員会による第1回カナダ合宿。

奇しくも日本初の海外登山はカナダのMt. アルバータ(3,619m)であり、慶応の楢有恒をはじめ、学習院の波多野正信、岡部長量ら6人の若手日本人登山家たちが初登頂に成功した。

そんな縁のあるカナダで再び、ユースクラブを中心とした若手登山家たちが合宿を行なった。今回の合宿は第1回と題されているように、今年も第2回が予定されている。街と山が近く、現地の日本人コミュニティから情報も得やすいため、比較的短い期間でスケール感のあるクライミングが楽しめるということで、会場にいる学生や社会人は熱心に、その楽しげな合宿の様子に耳を傾けていた。

次に報告を行なったのは、10月2日から11月25日にかけてネパールのカンチェンジュンガ山群にある未踏峰、シャルプーVI(6,076m)を目指した「ヒマラヤキャンプ2023」。2015年から始まった「ヒマラヤキャンプ」は、2019年から本会の120周年事業のひとつとなりコロナ禍での中止を挟み、今回はその5回目の実施。メンバーはヒマラヤ経験のない20代から30代を対象に公募し、1年以上かけてミーティングやトレーニングを重ねてチームをつくり、ヒマラヤの未踏峰をめざすプロジェクトだ。

今回の遠征でもプロジェクトリーダーの花谷泰広は実際の山行には参加せず、3名の隊員たちだけで試行錯誤と果敢な挑戦を繰り返し未踏峰に挑んだが登頂は果たせず。しかし「ヒマラヤキャンプ」の目的は十分に達することができたに違いない。

続いての報告は同志社大学極西ネパール登山隊による未踏峰ラマ峰(6,527m)。全国の大学山岳部が部員の減少や活動の縮小に悩むなか、同志社大学山岳部は関西の雄として着実な活動を続けている。単独の大学としてヒマラヤ遠征を企てる実力だけでなく、ヒマラヤ経験の少ない学生が主力メンバーとして参加しているのも日本での充実した活動の裏付けにほかならない。

「日本でできないことは、海外でもできない」をスローガンに、このたびの遠征に至るまでの日々のトレーニングや山行計画など、アカデミックなメソッドも紹介され、会場にいた他の大学山岳部や若手クライマーは、みな一同に感心していたのが印象的だった。しかし、それだけの準備と実力があるにもかかわらず、頂上まであと250mを残して登頂に至らなかったというのも未踏峰の難しさであろう。

最後の報告は、国内屈指のアルパインクライマーでもある種石英典と山本大貴のペアによる未踏峰フォレソビ(6,652m)北壁。

怪峰ジャヌー(7,710m)の近くにあるフォレソビに向かったのは10月11日。通常はモンスーン明け、風と寒さが到来する前に登山期間をぶつけると



いうタクティスが多いなか、彼らは不快なキャラバンを避けるため、登攀中の寒さの方を選んだという。

今回、ヒマラヤキャンプ隊が挑戦したシャルプーVIは、同じカンチェンジュンガ山群にあり、谷を挟んだ対面にあるが、ヒマラヤキャンプ隊は1週間早くキャラバンを開始している。そうして、標高差約1,500mのフォレソビ北壁に実際に取り付いてみると、想定よりもかなり傾斜がきつく、テントはもとより、横になることもできないピバークを繰り返しながらも快調に登攀は進んでいった。しかし、山本

の体調不良という想像すらできなかった不慮の事態で撤退という結果に。

4隊のうち、合宿の報告を除いた3隊の未踏峰の挑戦はいずれも登頂することはできなかった。未踏の山や壁の情報を収集して挑戦するまでは昔に比べて容易になったが、実際に行ってみて登ってみることでわからないことが多々あるのが未踏峰のおもしろさであり、難しさであるというのは今も昔も変わらない。海外登山の魅力でもある未知への挑戦はまだまだ続く。  
(滝沢守生)

## 今年は大バグー、来年はアルバータをめざす ユースクラブカナダ合宿

2023年から始まったユースクラブによるカナダ合宿。カナダでは石灰岩、花崗岩とさまざまなクライミングエリアを楽しむことができる。

昨年はレイクルイーズやMt.アサバスカ(3,400m)を登った。今年はフリークライミングでも人気のスコームッシュと広大な氷河をバックに登るアルパインエリアである大バグーに登る計画となっている。

さらにカナダ合宿の最終回となる来年にはアルバータをめざす。

アルバータは1925年に日本山岳会のメンバーであった橋本静一、早川種三、楨有恒、三田幸夫、波多野正信、岡部長量らによって初登頂さ

れた山。大学山岳部に所縁が深い彼らの登頂から100年を記念した登山にはぜひ若手会員らの活躍にも期待したい。



## 若手登山家の育成プロジェクト ヒマラヤキャンプ

ヒマラヤキャンプは、2015年に花谷泰広さんが始めたプロジェクト。今回、発表に参加した隊でコロナ禍を挟んで日本山岳会120周年記念事業としての2隊目を数える。

このプロジェクトは2025年には、ヒマラヤキャンプで育った若手会員を中心としたチームが、自発的に海外登山に取り組めるようになることを目指して運営されている。

そのためメンバーは、ヒマラヤや海外登山の未経験者あるいは経験が浅い20～30代を対象に公募となっている。約1年間かけて、ミーティングやトレーニング山行を重ねチームをつくり、ヒマラヤ6000m級の未踏峰へ挑戦する。トレーニングなど隊の様子はInstagramでチェックすることができる。



# ユースクラブ 2024上期活動の予定

ユースクラブにはさまざまな山行企画があり、部員が切磋琢磨して経験を積んでいます。現在のところ、秋までに決まっている企画は以下の通り。興味のある企画があれば、ぜひ一緒にしましょう。

## ①シリーズ 目指せ！北鎌尾根

### 【概要】

幾多の伝説に彩られた槍ヶ岳・北鎌尾根は昔も今も岳人憧れのコースです。ユースクラブでは北鎌尾根のようなバリエーションルートを自分たちの力で、安全に登れるメンバーを育てるために、この春から新しい企画を実施。北鎌尾根に登るためには、一に体力、二にルートファインディング能力、加えて登攀能力やロープワーク、ピバーク技術など、登山の総合力が必要となります。

この企画では4月から毎月1回、トレーニング山行を実施し、それらの力を養っていきます。

実施月	内容
4/6 (土) ~ 7 (日)	丹沢モミソ沢・懸垂岩
5/18 (土) ~ 19 (日)	両神山赤岩・八丁尾根
6/15 (土) ~ 16 (日)	表妙義
7/20 (土) ~ 21 (日)	明神南西尾根～前穂高岳縦走
8/31 (土) ~ 9/1 (日)	戸隠山 戸隠神社～蟻の戸渡～東へ
9/13 (金) ~ 16 (月祝)	北鎌尾根

## ②雪上訓練、合宿

### 【概要】

雪上歩行技術や体力、テント生活技術、パーティシップの向上などを目指して、合宿を行ないます。

昨年に続き、岳沢での雪上訓練や岩稜帯での合宿を予定。

5/11 (土) ~ 12 (日)	岳沢雪上訓練 (山研泊 貸切)
8/9 (金) ~ 12 (月祝) 又は 8/10 (土) ~ 13 (火)	夏山合宿 (剱岳か穂高)

## ③支部交流企画

### 【概要】

支部交流を目的とした山行もあります。

今年は福島支部との合同山行や、東海支部が関わる御在所フェスティバルへの参加のほか、一昨年の



広島合宿、昨年の岐阜合宿に続き、今年も本部ユースクラブと各支部のユース世代が1箇所に集まってクライミング合宿を行なう予定です(場所は未定)。

6/8 (土) ~ 9 (日)	福島支部・ユースクラブ合同 ヒメサユリの浅草岳
9/28 (土) ~ 29 (日)	御在所フェスティバル(ゴザフェス)への参加
11月上旬	ユース交流クライミング

## ④海外登山

### 【概要】

日本山岳会 120周年事業の一環として、昨年から3年をかけてカナダでの山行・クライミングを実施しています。

第2回目となる今年は、カナダ・ブリティッシュコロンビア州のスコームッシュ、バカブー山群に赴き、クライミングを楽しむ予定です。来年2025年は、アルバータ登山を目指します。

6/26 (水) ~ 7/11 (木)	カナダ合宿 第2回 (スコームッシュ、バカブー山群 でクライミング中心)
------------------------	--

「目指せ！北鎌尾根」は定員となりましたが、それ以外の企画は、日本山岳会会員で59歳までであれば、ご参加いただけます。

YOUTH CLUB 委員会 jacml-yc@jac1.or.jp までご連絡ください。

ご参加は、ご経験を加味した上で判断させていただく場合もあります。また、上記は24年3月時点の情報ですので、今後企画が変更したり、増えたりする可能性もあります。あらかじめご了承ください。

## 学生部の活動の紹介

### 隊員全員が学生だけの遠征隊

## 日本山岳会学生部海外遠征隊 2024

学生部に所属する大学山岳部で隊員が構成された遠征隊が始動。青学、中央、東大、立教から合わせて5名が参加しており、ヒマラヤ・ブンギ Phumgi (6,524m) を目指す。

このブンギという山は2022年のヒマラヤキャンプによってトライはされているが、最高到達点は6,150mで、残念ながら登頂には至っていない。学生たちは時間をかけて山へトライができるという強みを活かし、粘り強くこの山に挑戦していくことになる。

彼らは自大学の合宿の合間を縫って合同合宿を繰り返しており、これまで八ヶ岳での定着合宿、鹿島槍ヶ岳東尾根、劔岳早月尾根などで合宿を行なっている。今年の9月から11月にかけての遠征予定。

学生だけで登頂を目指す遠征隊をぜひ応援していきたい。



早月尾根での訓練合宿にて

### 降り積もった雪に充実の訓練

## 学生部雪山安全講習会

2月6日から8日に八ヶ岳山荘で雪山安全講習会が開催された。初日には前日の午後から降り積もった雪の影響で中央本線が運転を見合わせており波乱の幕開けとなった。

初日はそんな影響もあり、例年は同講習会内で行

なわれるアイスクライミング講習は中止。翌日から豊富に降り積もった雪の中で弱層テストやホワイトアウトナビゲーション講習が開催された。この講習会には専修、立教、東海から17名の学生が参加。

降雪による鉄道の運転見合わせというトラブルがあり、かつ今年は雪が少ないと言われるなかで、

ラッセルが必要なほど、厳しい環境下での良い講習会となった。



左、弱層テストのようす。  
右、降り積もった雪の中をいく